

【令和2年度 北海道大学総合博物館活動報告】

活動実施団体名 北海道大学総合博物館
責任者氏名 教授 大原昌宏
報告書作成者 研究支援推進員 植松淳子

1. 活動の名称：

北海道大学総合博物館主催 公益財団法人藤原ナチュラルヒストリー振興財団
財団設立40周年記念事業

パラタクソノミスト養成講座・コウチュウ目（上級）

講師：大原 昌宏

2. 実施日：2020年10月17日（土）～18日（日）

3. 実施場所：北海道大学総合博物館

4. 1日目

10：00～12：00

- ・講師の大原先生が研究されているエンマムシの種類や生態、構造そして分類学の論文の読み方についての講義
- ・交尾器の取り出し方、スケッチの前準備の染色方法、交尾器標本の保存処理についての説明。

13：00～16：00

- ・各自に渡された8mmほどのオオサワヒメエンマムシの標本を顕微鏡にセットし、ピンセットや細針を駆使しながら交尾器を慎重に取り出していき、手順に従い化学薬品3種類を置換し、同時に染色液に浸す。
- ・化学処理と染色が完了するまでの時間を使い、コウチュウの骨格構造を理解するため、オサムシの標本をピンセットと柄付針で解剖し、部位ごとに台紙に張り付けていく。

2日目

10：00～12：00、13：00～16：00

- ・前日に化学薬品に浸していた交尾器を取り出し顕微鏡で観察しながら、さらに細針と微細針を使い交尾器を分離する。
- ・スマホのカメラで顕微鏡のレンズを通して交尾器を撮影し、拡大印刷したものをトレーシングペーパーに鉛筆でスケッチ。
- ・その上から0.1mmと0.3mmの黒ペン2種類を使い分けてトレースをする。
- ・ツヤハナムグリの標本の解剖をしてオサムシの時と同様に台紙に貼り付ける。

5. 対象：中学生以上 参加人数：4名

6. 配布された資料を見ながら骨格を並べて各部の名前を調べてるために触角、顎、上唇等の骨格を壊さないように分離していく作業では、ピンセットで挟んでくっついてしまっている箇所を緩めていこうとしても、標本自体が小さいためにピンセットが滑り骨格を壊してしまったり、なかなかつまめなかったりと、受講生の皆さんは小さな標本相手に悪戦苦闘していました。2日間目を酷使した受講生たちは、黙々と作業を進めていきながらスケッチの技法を学んでいました。

全員が骨格標本を持ち帰り希望で、大変満足いただけた講座だったようです。

7. 活動写真

